風土記の丘の花だより30

今、そしてこれから見られる植物（3月26日）

風土記の丘のフェイスブックで３月２１日にソメイヨシノの開花宣言がされていました。それから５日、いまでは一分咲きほどになりました。これからますますきれいに咲いてくることでしょう。昔からよく「三日見ぬ間の桜かな」と言われます。文学に疎い筆者には、それが咲く時か、散る時かよく分かりませんが、日に日に花の様子が変わることをよく表していると感心します。サクラはふつう、木全体を眺めて「うわあ～キレイに咲きましたねぇ」と愛でることが多いと思います。左の写真のように花だけクローズアップしたら、逆に「何の花？」と思うかも知れませんね。ソメイヨシノはその昔、江戸の植木屋さんがオオシマザクラとエドヒガンという２つのサクラを掛け合わせて作出したものと言われています。その両方とも風土記の丘にあります。

キランソウが咲き始めました。濃い紫色の鮮やかな花を咲かせます。日当たりのよい所に張り付くように這え広がるので「地獄の釜の蓋」と呼ぶこともあるそうです。（筆者はまだそう呼ぶ人にお会いしたことはありません。）この写真は２５日に安藤塚で撮ったものですが、これからは散歩道沿いでもよく見かけるようになることでしょう。

ムラサキケマンの花がたくさん咲いています。長い花茎に先だけが紫色のピンク色の細長い花がたくさん付きます。お馴染みのホトケノザに感じが似ていますが、立ち止まって観察すると似ているのは色合いだけであることが分かります。葉も花も全然違います。植物はしゃがみ込んで観察することをお勧めします。時には寝っ転がることもいいですね。（人目が気になりますが）これからまさに百花繚乱、紹介しきれない花が増えてきそうです。松下

風土記の丘の花だより31

今、そしてこれから見られる植物（4月2日）

ソメイヨシノが満開に近づき、新年度が始まりました。これからもできるだけたくさんの草や木の花を紹介していきますので、ご愛読のほどよろしくお願い申し上げます。

今回は黄色い花特集です。

ヤマブキの花が咲きました。絵の具の「やまぶき色」の語源になった花です。また、太田道灌の「・・・実の一つだに無きぞかなしき」の歌でも知られています。それでヤマブキには実がならないとお思いの方も多くおられますが、ちゃんと実はなります。あれは八重咲きのヤマブキなのです。八重咲きは雄しべや雌しべが花びらに変わっているので、実がならないのです。写真は一重です。

ウマノアシガタもあちらこちらで咲いてきました。変な名前ですが、どこが馬の足の形なのか、私は知りません。キンポウゲ科の草で、これをキンポウゲと呼ぶ人もおられるようです。キンポウゲの仲間でエンコウソウという珍しい植物がありますが、万葉植物園で花茎が日に日に伸びています。これとよく似た花がもうすぐ咲くことでしょう。花は少し小型になりますが、ケキツネノボタンという草花も少し湿った所に咲くでしょう。どれも黄色です。

セイヨウタンポポが咲き始めました。ここでは厳冬期を除いてほぼ一年中見ることができますが、カンサイタンポポが咲き始める頃には咲いていないことが多いです。花はがっしりしていて、下の方にべろべろしたものが反り返るように付いています。人の行き来が多い所によく生え、最近できたような公園などでは大きな群落も見られます。自然のかく乱が少ない所によく生えるカンサイタンポポの方が風土記の丘ではたくさん見られますが、この時期は両方のタンポポが見られます。散歩の途中、ちょっとしゃがんで見比べてください。さて、次回は何色の花を紹介しましょうか。　　松下

風土記の丘の花だより32

今、そしてこれから見られる植物（4月12日）

今、サクラではヤマザクラが葉桜になり、ソメイヨシノもほとんど散ってしましまいた。サトザクラの仲間のサクラが満開に近づいてきています。サトザクラは八重咲きで花も大きく豪華です。資料館までの通路ではカンザン、安藤塚ではうす緑色の花を付けるギョイコウが咲いています。トイレと旧谷村家住宅の間ではイチヨウが咲いています。ちなみに、イチョウではありません。イチヨウ（一葉）ですよ。万葉植物園や山ではカスミザクラも咲き始めました。さて、前回は黄色い花を紹介しましたが、今回は白い花を３つ紹介します。

スミレといえば、一般的に紫っぽい、いわゆるすみれ色の花を連想しますが、このアリアケスミレは白い花を咲かせます。修復古墳の丘にたくさん咲いています。ポプラの木に着いたヤドリギを目印に少し下りて行ってください。白いスミレではほかに小さくて葉に白い斑（ふ）が入るフモトスミレも散歩道で見られます。今の季節、いろいろなスミレが咲いています。

今、年は早く咲き始めたシャガが今満開です。園内のあちらこちらで白い花が咲き乱れています。遠くからは白く見えますが、よく見ると、ごく薄い青色で、濃い青や、黄色の模様が入っています。花の形からもわかるように、アヤメなどと同じ仲間です。この植物の面白いところは葉です。葉が真ん中から縦に折れて、表どうしがくっついています。ですから、シャガの葉は、表も裏もどちらも裏ということになりますね。

最後はどこにでもごく普通に生えるオランダミミナグサです。全体に毛深く、ハコベのような花が咲きます。名前からわかるように外来植物です。日本には元々ミミナグサという草がありますが、それも風土記の丘にはたくさん生えています。それは毛が少なく、全体の色が少し濃く紫がかっています。もうすぐ花が咲きます。咲いたら両者を見比べてみてください。

松下

風土記の丘の花だより33

今、そしてこれから見られる植物（4月19日）

今回は「見分ける」がテーマです。花にはよく似たものがたくさんあります。それを見分けるのは大変なようで、実はポイントを押さえれば簡単です。「分かる」という言葉の語源は「分ける」」だと聞いたことがあります。ＡとＢを「分ける」ことが「分かる」ということです。ではいくつかの花を見分けてみましょう。山に咲いている桜はみんなヤマザクラ、という訳ではありません。少し前までよく咲いていたヤマザクラと、今まさに見頃のカスミザクラを見分けましょう。左の写真がヤマザクラです。花の柄が紫色を帯び、写真ではわかりませんが毛がありません。右はカスミザクラで、花の柄が緑色で毛が生えています。下から見あげていても分かりませんが、花が落ちていたら、手にとってじっくり観察してみてください。はっきりと見分けられます。

次は前回に紹介したオランダミミナグサとミミナグサを見分けましょう。左が前回紹介した外来種のオランダミミナグサです。全体に黄緑色で毛深いです。右が在来種のミミナグサです。紫がかった濃い緑色で、毛はそれほどありません。また葉が厚ぼったい感じがします。前者はどこにでも生えていますが、後者は花木園の山側の側溝で見ることができます。何気ない花ですが、珍しいものです。

最後はオニタビラコとヤブタビラコを見分けましょう。名前がよく似ていて、どちらも黄色くて小さな花です。左のオニタビラコは花茎が細く長く直立します。右のヤブタビラコは横に這え広がり花の後が丸く膨らみます。今はどちらの花もあちらこちらでみることができます。普段見過ごしている草花も、注意深く観察するとおもしろいですよ。

松下

風土記の丘の花だより34

今、そしてこれから見られる植物（5月10日）

世の中は、コロナ、コロナで大変なことになっています。本館も連休中は閉館していました。久しぶりに山を歩くと、草花の様子が大きく変わっていることにお気づきになったことでしょう。今の季節は毎日が新しい発見の連続です。さて、今回は遅れを取り戻すためにも、出来るだけたくさんの花を紹介しましょう。１枚目は、うすいピンク色の小さな花、アメリカフウロです。葉は深く切れ込んでいます。草丈の割には小さな花です。フウロは、高山植物で有名なハクサンフウロのフウロです。

２枚目はオオアマナ。これは野生の草ではありません。園芸用に栽培されるものですが、どういうわけか山頂の展望台の下に群生しています。アマナというのは、春早くから咲く花で、こんなにたくさんではなく、一輪ずつ弱々しく咲きます。

３枚目はアヤメです。昔からよく「いずれアヤメかカキツバタ」と言われますが、どちらも確かによく似ています。生えている所を見れば、すぐに分かります。水辺に生えていればカキツバタ、普通の所にはえていればアヤメです。またアヤメには花びらの中央に網目模様がありますが、カキツバタにはありません。さらに、アヤメはヒラヒラした感じですが、カキツバタはシュッと立っている感じです。

４枚目はコナスビです。聞き慣れない面白い名前ですね。花はナスビの花には似ていません。実の形がプクっとしていてそれが小さなナスビに似ているのです。周りに大きな草が生えていない日当たりのいい所に生え広がり、上には延びません。いつも踏みつけられている草です。最後はニワゼキショウです。これは外国から来た外来植物ですが、今やあちらこちらで見られます。写真はピンク色ですが、白い花もあります。どちらも同じ種類です。花のあとには丸い実ができて、線香花火のようにも見えます。今回は５種類紹介できました。風土記の丘は花いっぱいです。観察を楽しんでください。

松下

風土記の丘の花だより35

今、そしてこれから見られる植物（5月17日）

大池の堤から眺めると、風土記の山はクロバイの白も、シイノキの薄黄色も、キリの紫もなくなり、濃い薄いはあるものの、みごとに緑一色になりました。園路を歩くと白い花が目に付く季節です。

スイカズラは甘い香りがするので、花が見えなくても咲いている事がわかります。咲き始めは真っ白ですが、少し時間が経つと色あせて黄色くなります。フェンスや他の木などに絡みつくツル植物です。漢字では「忍冬」と書き、寒い冬を耐え忍んで暖かくなると咲き始める生態をよく表現しています。

同じく甘い香りのする花に、テイカカズラがあります。これも他の木などに絡みつくツル植物です。でも、どちらかというと、テイカカズラの方が高く伸び上がっていく場合が多いようです。テイカは藤原定家のことで、式子内親王を愛した彼は、彼女の死後も忘れることが出来ず、ツル草になって墓石に絡みついたという言い伝えが残っています。

卯の花も咲いています。標準和名はウツギです。漢字では空木と書きますが、茎が中空になっていることによります。唱歌「夏は来ぬ」で歌われるので昔から人々によく知られた花です。それに出てくるホトトギスの声も聞こえます。万葉植物園の入り口手前がきれいです。

ガマズミもきれいに咲いています。少しピークが過ぎたので、落花も盛んです。晴れた日には白い花にカミキリムシやハナムグリ、ハチやアブなどの昆虫がたくさん集まってきます。花もきれいですが、そんな虫たちを眺めるのも楽しいものです。

最後にキイシモツケの花を紹介します。この花は和歌山県特産で、龍門山に群生地があります。シモツケの仲間には地方によっていろいろな種類があります。それでキイシモツケについても、どこそこのシモツケと同じじゃないか、という人もいるようですが、私たち和歌山県民は和歌山特産であることにしておきましょう。今回は白い花５種を紹介しました。白い花ではほかに、ハクチョウゲ、マルバウツギ、カナメモチなども咲いています。松下

風土記の丘の花だより36

今、そしてこれから見られる植物（5月24日）

日差しが厳しくなってきました。新緑の中から鳥の声が聞こえ、チョウが飛び交い、歩くのが楽しい季節です。でも園内散策では熱中症対策を万全にしてください。さて、今回もいくつかの花を紹介しましょう。

目立たない花ですが、ソクシランが谷山家や船屋の南斜面で咲いています。他の草に隠れて見づらいですが、ひょろひょろと風にそよぐ清楚な花を見つけることが出来るでしょう。名前にランと付きますが、ラン科ではなくキンコウカ科という別のグループの植物です。（以前はユリの仲間に分類されていました。）当園に長く勤務している職員によると、かつてはもっとたくさん生えていたということですが、今では、あちらこちらにパラパラといった感じで生えています。

近くにはよく目立つノアザミもたくさん咲いています。葉にとげとげがあり、衣服の上からでも刺さるほどの鋭さです。花は鮮やかな濃いピンク色で丸く盛り上がりとても可愛い花です。アザミの仲間にも何種類科かありますが、この季節、この辺りに咲くアザミはこのノアザミと思って間違いありません。しばらく眺めているとチョウやアブ、ハナムグリなどの昆虫が集まってきます。それらを観察するのも楽しいものです。

アサザの黄色い花が２３日に１輪だけ咲きました。アサザは池や小川などに生える草で、スイレンを小さくしたような葉を水面に浮かべます。でもそのような環境が失われつつあり、今では珍しい植物になってしまいました。当園では万葉植物園や新池に植えられています。

園路沿いの東のトイレから少し東側に坂を下った右斜面にコジキイチゴが白い花を咲かせています。余り好ましくない名前ですが、バラ科のキイチゴの仲間の植物です。茎に細かい刺がびっしり生えているので他のキイチゴとは簡単に見分けられます。斜面は危険ですので道から眺めるだけにしてください。どういう訳か、道沿いではそこでしか見ることができません。他の場所で見かけたら、お知らせ下さい。

松下

風土記の丘の花だより37

今、そしてこれから見られる植物（5月31日）

日差しが益々厳しくなってきました。でも、ちょっと梅雨の気配も感じます。風土記の丘の花は、ちょうど春から夏へ移り変わる時期で、それほどたくさん咲いていません。そんな中で、ちょっと地味かもしれませんが、いくつか紹介しましょう。

今年も旧小早川家の南でキキョウランが咲いています。ランと付きますが、ラン科ではなく、ススキノキ科の植物です。（以前はユリ科に分類されていました。なお前回３６号で紹介したソクシンランですが、ソクシランとなっていました、訂正してお詫び申し上げます。）キキョウランは紀伊半島の南の海岸沿いに多く見られますが、和歌山市の和歌浦あたりにも自生しています。目立たない草ですが、機会があれば見に行ってやってください。

ユキノシタの花が、これも旧小早川家の庭のミョウガに混じって咲いています。初夏を感じさせる涼しげな花です。ユキノシタは日陰の湿っぽい所に群生します。花の形が変わっています。葉は円く、斑も入っているので葉だけでも観賞出来ます。

コモチマンネングサの黄色い花も目立ちます。マンネングサの仲間は水分が多く、葉はまるで多肉植物のように厚いです。葉の腋に小さな芽を出すので「子持ち」と付いていま。それが外れて増えていくのです。花を見ているととても可愛いのですが、どんどん増えるので、嫌われる雑草の一つになっています。この草には何の罪もないのにかわいそうな話です。

山道を歩いていると一番下の写真のような黄色い花を見かけませんか？春の七草「ごぎょう」のハハコグサのようでが、それより大きく、背も高いです。これはセイタカハハコグサという外来植物です。ハハコグサは春まだ寒い頃から田んぼの周りなどで黄色い花を咲かせ、山道沿いではほとんど見ることができません。でも、この草は、少々乾いた所でも平気で生えています。

どれも小さな花ですが、観賞してくださいね。　　松下

風土記の丘の花だより38

今、そしてこれから見られる植物（6月7日）

夏日、真夏日の連続で山を歩くとたくさんの汗が出ます。水分補給など、熱中症対策を万全にして、安全で健康に歩いてください。ただ一つ提案があります。いつもの半分ほどの速さで歩いてみませんか？周りの自然、草木の様子など、見えるものが違ってきますよ。さて、今、いちばん目に付くのはネズミモチの白い花ではないでしょうか。少し茶色くなっているものもありますが、ほのかに香るこの花を至る所で見ることができます。どうして、名前にネズミという言葉が付いているかのお話をします。ねずみはねずみでも、ねずみの糞のことなのです。花が終わると実ができます。出来たときは緑色ですが、秋になって熟すと、黒くてマッチ棒の先の様な形になります。それがねずみの糞に似ているというのです。でも、このごろは家の中でネズミの糞を見る事も無くなりました。この話を聞いても「ピン！」と来ない人の方が多くなってきました。

キョウチクトウの花が咲き始めました。夏の花です。いろいろな品種があり、花の色は赤、ピンク、白など様々です。この季節から、夏を越えて秋まで咲いています。この木はとても丈夫で、切ってもきっても茂って、大きな株に育ちます。また、切ると白い汁が出て、体質によってはかぶれる人もいるらしいので気をつけてください。

ムラサキシキブの花が咲いています。秋にできる実は紫色できれいですが、花も紫色できれいです。小さくて目立つ花ではありませんが、ゆっくり歩いていると見つけることができるでしょう。見つけたら立ち止まってじっくり観察して欲しいものです。何も速く歩くだけが山歩きではありません。ゆっくり歩いて、いろいろな自然とふれ合ってください。アジサイもいろいろな所で咲いています。いろいろな色を楽しんでください。クリの花の香りが漂う季節です。それもゆっくり味わってください。　　松下

風土記の丘の花だより39

今、そしてこれから見られる植物（6月14日）

　雨の日が続いています。少し歩いただけで雨と汗でベトベトになってしまいます。歩きながら花を観察することで、そんな不快感をしばし忘れることができるかもしれませんね。

　クチナシの花が咲いています。梅雨によく似合う花ですね。クチナシはアカネ科の植物で、花はとても良い香りがします。咲き始めは真っ白ですが、すぐに黄色く色あせます。園内のあちらこちらで咲いています。姿は見えなくても、甘い香りが漂ってくると、この花が咲いている事がわかります。

　キササゲの花が竪穴住居の東側で咲いています。高いところなので、手にとって観察する訳にはいきませんが、少し見あげると、薄黄色の花が咲いているのが分かります。細長く垂れ下がっているのは昨年にできた実です。まるでお豆の「ささげ」のようなので「木のようなささげ」でキササゲです。でもマメ科ではなく、ノウゼンカズラ科の植物です。

　梅林の少し西に大きな木が立ち並び、細長い実が垂れ下がっているのが目に付きます。シナサワグルミの木です。この木は明治時代に中国から渡ってきた、２０ｍを越える大きな木です。名前のとおりクルミ科の植物ですが、普段食べるクルミとは実の形が全く違います。シナサワグルミのさらに西には、トチノキ、ユリノキなど大きな木が植えられています。これまで上ばかり見てきましたが、足元にも可愛い白い花が咲いています。ジャノヒゲの花です。別名をリュウノヒゲと言いますが、ジャ（＝へび）にはひげはありませんから、ジャノヒゲはいおかしい名前ですね。いずれにせよ、細くて長い葉を、そのひげに見立てた命名です。これまではユリ科に分類されてきましたが、現在はキジカクシ科になっています。何科であってもきれいな花には変わりはありません。注目されることの少ない花ですが、ゆっくりと観賞してみてください。　　松下